

令和2年度学校経営計画表

茨城県立竜ヶ崎第一高等学校

1 学校の現況

学校番号	56	学校名	県立竜ヶ崎第一高等学校					課程	全日制			学校長名	川村 始子				
副校長名	太田垣 淳一			教頭名 高野 健二								事務長名	野口 範正				
教職員数	教諭	51	養護教諭	1	常勤講師	4	非常勤講師	2	実習教諭, 実習講師, 実習助手	1	事務職員	5	技術職員等	5	計	69	
	小学科	1年			2年		3年		4年		合計		合計クラス数				
	普通科	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女						
		131	109	163	115	152	123			446	337	20					

2 目指す学校像

歴史と伝統を誇る重厚な校風の中で、文武両道の精神を継承し、豊かな教養と英知を備え、地域社会をはじめ国際社会に貢献しうる有為な人材の育成に努める。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> • およそ90%が授業に真剣に取り組んでいるが、予習・復習の実施率は約70%で減少傾向にある。 • 家庭学習時間が不足している生徒が30%程度いる。 • 計画的に学習を進める習慣が定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 学習意欲を高め、自学自習につながる授業を創意工夫する。 • 宅習簿を効果的に活用し、家庭学習時間を確保するための指導を強化する。 • 3年間を見通した各教科の指導プログラム（シラバス）を明確にし、学習指導を充実させる。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> • 進路希望の多様化が進んでいる。 • 志望は高いが、具体的な行動に移せない生徒が多い。 • 国公立難関大学に挑戦できるだけの学力をつけさせる。教科指導を徹底していく段階に入ってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> • 生徒の希望や資質及び適性に応じた進路指導を、学年と連携を取りながら組織的に行う。 • 初期指導の充実により生徒一人一人の希望進路を明確化させて、早期から取り組ませる。 • 国公立難関大学に挑戦する生徒たちをチームとして支援・指導していく体制を確立し、手立てを具体化し、共有化する。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> • 制服については、継続的な指導により正しく着用することが身につけている。 • 心身とも不安定な生徒がいる。 • 登下校時の自転車の乗り方等について、地域の方から指摘を受けることがある。 • 「校内スマホルール」を守れない生徒がいる 	<ul style="list-style-type: none"> • 「さわやかマナーアップ運動」への積極的な参加等により、規範意識や道徳心をさらに高める。 • 生徒全体を観察し、生徒を理解するように取り組む。 • スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの協働により、教育相談体制を一層充実させる。 • 登下校指導を行い、交通ルールの遵守を意識づける。 • 情報安全教室などを通して、スマホの正しい使い方を身につけさせる。

特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 部活動への加入率はR元年度80%（運動部：59%、文化部：21%）で、様々な活動に積極的に取り組む生徒が多い。一方で、学業との両立に悩む生徒がいる。 部活動未加入者への対応が必要である。 ハイスクールオンライン「マナビジョン」を用いて活動後に振り返りを入力するように指導しているが、きちんと活動歴を記録している生徒は少ない。 キャリアパスポートの活用が求められている中で、その対応がいまだに十分ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の効率化・活性化を図りながら、学習時間を確保させる。 部活動未加入者を含め、すべての生徒に活躍の場面を多く設ける。 ハイスクールオンライン「マナビジョン」の機能を活用した活動の履歴を記録するための十分な時間を設ける。 記録の必要性を生徒に理解させる。 記録の入力状況を教員は把握して、未入力の生徒への声かけや面談をする機会を増やす。
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> 全日制職員の中には、熱心に教材研究をする教員、遅くまで或いは休日返上で部活動指導を行う教員は少なくはない。 	<ul style="list-style-type: none"> 仕事の効率化を図り、業務の分担を適正にして平準化を図り、時間外勤務の量を減らす。 部活動の効率化及び複数の教員での分担を図りながら、時間外勤務の量を減らす。

4 中期的目標

<p>「教育の質の向上を目指す学校づくり」（3年間を見据えて）</p> <ol style="list-style-type: none"> 自ら学び、自ら考える「確かな学力」を育む。 生徒の主体的活動を促進し「生きる力」を育む。 生徒一人一人の道德心を培い「豊かな心」を育む。 「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」事業等を活用し、グローバルに活躍できる人材の育成を図る。 特色ある学校づくりを進めることで、地域から信頼され期待される学校づくりに努める。 働き方改革の必要性を教職員が正しく理解し、生徒たちにより教育をするために、先生方がゆとりを持って授業等ができるように働き方改革を推進する。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
<ol style="list-style-type: none"> 個に応じた指導の充実を図り、「確かな学力」を育む。 	<ol style="list-style-type: none"> 生徒が自ら課題を見だし、主体的に学び続け、問題解決できる能力を育成する。 学習意欲の向上につながる指導の工夫とともに、「授業力の向上」に努める。 授業、土曜講座、課外、自学自習を有機的に結びつけ、自主的、主体的な学習習慣の確立を図るとともに、家庭学習の定着に努める。 授業研究・授業公開等を活発化させ、主体的・対話的で深い学びの実現に努める。

<p>2 キャリア教育の充実を図り、生徒一人一人の希望進路の実現に努める。</p>	<p>(1) Rプログラムに基づく系統的・組織的なキャリア教育により、将来の目標をより明確にし、学習意欲の向上に繋げる。 (2) 丁寧な個別面談を行い、生徒一人一人の「進路設計とその課題」を明確にし、最後まで諦めずにチャレンジし続ける心を養う。 (3) 学年間・教員間の連携を深め、広い視野から組織力・協働力で効果的に進路指導を進める。 (4) 「スーパーサイエンスハイスクール (SSH)」事業を通して、生徒の能力と適性に応じた希望進路の選択の幅を広げる。 数値目標：東大・京大及び国公立医学部医学科複数人合格、筑波大30人以上合格、国公立大120人以上合格、難関国立12大学20名以上合格</p>
<p>3 豊かな心を育む教育を推進する。</p>	<p>(1) 規範意識や道徳心の育成等による豊かな心の育成に努めるとともに、「いじめ」を絶対に許さないという意識の醸成に努める。 (2) 教員間の協働態勢・共通理解による指導を推進し、教師と生徒の信頼関係の構築に努める。 (3) 生徒の心情の理解を深めるとともに問題行動の早期発見・早期解決に努める。</p>
<p>4 特別活動及び学校行事の充実に努める。</p>	<p>(1) 文武両面において、主体的に取り組める生徒を育成する。 (2) ホームルーム活動、部活動及び生徒会活動を充実させることで、生徒の主体性を育成する。 (3) 本年度より導入した「classi」の機能を活用し、積極的な活動歴の記録を推進することでキャリアパスポートの利活用に努める。</p>
<p>5 グローバルに活躍できる人材の育成に努める。</p>	<p>(1) 「スーパーサイエンスハイスクール (SSH)」事業を通して、将来国際的に活躍し得る科学技術人材等の育成を図る。 (2) 国際交流事業を推進し、異文化を体験することによって、グローバルな視野を広げる。 (3) 英語によるディベートやプレゼンの推進、英語検定試験の受験の促進を図る。</p>
<p>6 働き方改革を推進する。</p>	<p>(1) 時間外労働が月45時間、年間100時間を超えないように、勤務時間管理の徹底を図る。 (2) 仕事量が一部に偏らないように、仕事を適切に振り分け、業務が平準化するよう努める。</p>